

有馬川を道場から有馬温泉まで

第 92 回 武庫川エコハイク
2014. 12. 13. エコグループ・武庫川

武庫川 全長 65km、流域面積 500km²、篠山市、能勢町、三田市、神戸市北区、西宮市、宝塚市、伊丹市、尼崎市の 7 市 1 町を流域に持ち県内有数の人口・資産を抱える 2 級河川である。「武庫川」の名は下流の蓬川の東側が武庫郡であり、武庫郡は日本書紀にある「務古水門(むこみなと)」からとか、浪速から見て「向こう」にあるからとか諸説がある。本川の源流は篠山市にある。篠山市から三田盆地までは緩やかな傾斜であるが、道場を過ぎると武庫川溪谷の急流となる。武庫川下流の治水対策として武庫川溪谷に治水ダムが計画されたが、県は武庫川流域委員会を設置して 2 年半にわたり協議した結果、平成 22(2010)年 10 月、20 年間はダムによらず流域対策と堤防強化、河道掘削で治水対策を実施することとなった。

JR 道場駅 阪鶴鉄道が三田まで開通した明治 32 年(1899)に開設された。千苺水源池、鎌倉峡、百丈岩ハイキングの玄関口。

有馬川 有馬川は六甲山北側紅葉谷を源流とし、有馬温泉、西宮市山口町を北流し神戸市北区道場町で武庫川に合流する延長約 5km の 2 級河川。滝川と六甲川が合流する有馬川起点から下流は 3 面張り。河川勾配が大きいので落差工が多い。明治 32(1899)年 7 月六甲山鳴動とともに有馬温泉の湯温が上昇湧出量が増加し、下流に塩害を及ぼした。有馬鉱泉毒事件といわれる。温泉組合は温泉排水用の土管を名来まで埋め河川水と分流して解決した。しかし温泉からの排水等により有馬川の塩分は他の河川よりも高い。

有馬川と武庫川の合流点 有馬川が注ぐ武庫川の合流点に立つと武庫川と有馬川の高低差がよくわかる。高低差の大きな有馬川の水が強く武庫川の水に打ち勝って武庫川の流を阻害する。

尼崎学園と唐崎城址 有馬川と武庫川の合流点の山に尼崎市の児童養護施設「尼崎学園」がある。ここには南北朝時代に唐崎城があった。

塩田 道場町塩田。生野と同じく「塩生野(しりち=尻地)」であったが生野と塩野(塩田)に分かれた説があるが、不詳。塩瀬、名塩、有馬温泉(潮湯)など塩分を含んだ土地との節もある。

塩田八幡宮 創建年代は不詳だが、かつて塩田庄と総称される以前の創建で、すでに大同年間(800 ごろ)には御年神を 祀る大歳神社として存在していた。その後、山城国石清水八幡宮より応神天皇・神功皇后・玉依姫の 御霊を勧請合祀するに至り、石清水八幡宮の別宮として(塩田)八幡宮と称号するようになった。数次の戦禍を受けたが明暦 3(1657)年三田藩主九鬼隆昌により再建され、九鬼家の崇敬を受けてきた。本殿は明暦 3(1657)年九鬼家によって再建された。正面に千鳥破風・軒唐破風をつけた三間社流造で多彩な彫刻が各所にある。神戸市指定文化財。樹齢 450 年といわれるヒノキとヤマモモはご神木とされている。裏山は別宮山という城があったという。

月見橋 江戸時代「摂津名所図会」に残る月見橋は八幡宮の山裾に流れていた塩田川に架かる。在原行平などの文人に愛されたという。現在の月見橋は有馬川宮前橋の上流にある。この辺り旧国鉄有馬線は有馬川左岸を通っていた。

在原行平と松風・村雨 平安時代在原業平の兄行平が塩田に逗留中この地の松風・村雨の姉妹と懇意になり、月見橋から 3 人で都恋しと月を眺めたという。世阿弥の能楽「松風」には須磨を舞台に風と村雨が出てくる。

長尾川合流 道場小学校裏で長尾川が合流する。

有野川合流 国道 176 号線の橋の下流で有野川が合流する。

松原城址(タンポポ城址) 南北朝時代赤松氏が築城したという。道場城ともいわれ、有野川と有馬川の合流点の要害の地にあり、天正年間三木別所氏の一族松原氏が支配したが天正 7(1579)年織田氏に攻められ落城した。松原氏の姫が鼓が好きで、よく城中から「タン、ポン、ポン」と鼓の音が響いていた。城下の人は城を「タンポポ城」と呼ぶようになった。

道場河原(道場川原) もと大谷派本願寺下常楽寺の子釈了善がこの地に道場を建て近くに川原があったことから道場河原と呼ばれるようになった。この地は有馬川有野川が合流する地区で人・物の集積場となっていた。丹波からの丹波街道、播磨方面への播磨道の分岐でもあったことから江戸時代宿場とされて賑わった。

平田 平田は開き田といわれ平らな土地のことという。

名来(ならい) 西宮市山口町の地名。有馬川がこのあたりで緩やかになることから、平坦の地を指すナラ、ナルから出たという。

お天井山(功地山) 名来の有馬川右岸の山かつて公智神社があったという。

名来神社 正面に火の神様「愛宕社」(祭神軻遇突智命かぐつちのみこと)、左側に水の神様「水神社」(祭神 象女命みつはめのきこと)。名来の鎮守。

山口の大ケヤキ 下山口の国道 176 号線が渡る新明治橋のほとりの民家にある大ケヤキは西宮市の天然記念物に指定されている。樹齢約 250 年、樹高約 20m、胸高直径約 1.1m。

駅前橋 公智神社付近に国鉄有馬線の有馬口駅があった。小さな橋が駅前橋となっている。

有馬川緑道 下山口から金仙寺口までの有馬川右岸にある緑道。約 1.5km。遊歩道として整備されている。

公智神社(こうちじんじや) 延喜式内社。境内にある神輿殿はもと釈迦堂で明治以降神輿殿となった。西宮市建造物指定文化財。また社叢は瀬戸内海沿岸に発達するシイ・ウラジロガシ群落で西宮市の天然記念物。

山口の大カヤ 西宮市山口町中野の民家にある大カヤ。樹齢 400~500 年、根回り約 5.5m、樹高約 20m。西宮市の天然記念物。

十八丁川 六甲山頂の鉢巻山付近を源流とする 2 級河川。

旧国鉄有馬線有馬駅跡 有馬温泉手前の乙倉橋付近の右岸に旧国鉄有馬線の有馬駅があった。現在病院のあるあたりが駅舎で有馬温泉寄りに車庫があった。乙倉橋の欄干には当時の風景が透かし彫りとなって残されている。

さくらの小径 乙倉橋から有馬川左岸は「さくらの小径」と呼ばれ桜の名所である。

有馬川起点 有馬川起点は滝川と六甲川が合流する地点にある。